

## 報告事項(2)

平成22年度(2010年度)NGO・外務省定期協議会  
「第2回連携推進委員会」資料 2010年11月8日(月)

草の根・人間の安全保障無償(GGP)レビュータスクフォースの報告

報告者:大橋正明(シャプラニール)

これまでに、今朝行われたものを含めて5回の会合が持たれ、かつ8月にバングラデシュでのフィールド調査が行われた。今回は第三～五回の会合(第五回はバングラデシュでのフィールド調査報告を含む、第六回は今後の進め方)をかいつまんで報告する。

### 1. 第三回会合(6/28)の主要ポイント

#### 1) GGPの案件に関する膨大なデータの分析(JOICFP 浜野による報告)

資料:JOICFP/浜野作成のエクセルによる分析結果や一覧表など

・年度、月別推移から、年度末に集中していることがわかる。

→21年度の年度末に締結された件数が多いのは機構改革の影響あり。22年度は比較的緩やかなカーブを描いているはず。

・アフリカ増加傾向、アジアは微増、その他変わらず。アフリカは一件当たり単価が少なめ。

→中南米は昔から案件数多い。一般無償の卒業国が多い。学校建設のような類似案件が多く、承認の効率が良い。一方案件数が少ない国では、タイプが異なる。アフリカはTICAD予想よりも少ない。

→アフリカはサブサハラアフリカ。北アフリカは中近東に含まれる。

(上記に関連した外務省からの情報)

・実施機関はローカルNGOが圧倒的に多い。

・業務を担当するのは必ずしも委嘱員だけではなく、職員

・19年度から、年度初めに本省から各国に割り当て件数を通告。上限一件あたり1,000万円。件数は前年度実績を参考に決められる。年度初めに方針を本省から送付するものの、実際の選定は在外公館に任せている。ただし国別長期戦略に沿ったもの。

### 2. 第四回会合(7/21)の主要ポイント

#### 1) バングラデシュ出張に関する詳細な打ち合わせ:略

#### 2) 今後のスケジュールに関して

・次年度訪問先候補は、これまでの実績額の大きさと多くの日本のNGも活動しているため、カンボジアを第一候補としたい。但しこの作業の単独での予算計上は非常に厳しい。

・カンボジアについてはまずはNGO側からカンボジア市民フォーラムに打診してみる。

・訪問先については制限もあるため、NGO側が協力できる地域であると1~2カ所選定して、実施するのが適当であると考え。候補地についてはカンボジアを第一候補として、NGO側で進めて行きたい。

・外務省としてもカンボジアはメジャーな支援先の一つなので省内でも確認作業を実施していきたい。

報告事項(2)

平成22年度(2010年度)NGO・外務省定期協議会  
「第2回連携推進委員会」資料 2010年11月8日(月)

3. 第五回会合(9/17)の主要ポイント

1) バングラデシュ調査報告(大橋)

8月8日から12日にかけて、外務省国際協力局開発協力総括課高橋及びシャプラニール大橋が、在バングラデシュ大使館が実施している最近のGGPについて、担当者や受益者・非受益者などへのインタビュー、関係書類調査、実地検分などを通じてレビューを行った。

これに加え、元委嘱員等からの聞き取りを加えて作成した大橋による報告は、主に以下の二つからなる。

- ① 現場で在バ大使館側とも確認したGGPの進め方の具体的な改善点数点：上記を考慮したスケジュールとその明示、応募書類及び見積書の簡略化、情報開示と広報の改善、審査の改良など
- ② NGO側が考えるより根本的なポイント：日本NGOの関与の可能性、GGPの外務省における位置づけと意味への問い、制度的、技術的な諸問題(専門性、委嘱員制度、GGPの選定基準、単年度主義・ハード中心・一方でソフトのモニタリング機能などの制度的問題)

2) 大使館サイトでのGGPに関する情報提供の分析(浜野)

大使館サイトでのGGPに関する情報提供は、質・量ともにばらつきが大きい。制度の説明・申請用紙(英語・現地語)がサイトで入手できるよう改善されることが望ましい。(追記：ただし、ウェブサイトのメンテはコストと労力がかかるので、すでにユーザーフレンドリーなページを作成している大使館のページを共有するなど、コストと手間がかからない工夫が必要。)

4. 第六回会合(11/8朝予定だったが、NGOの都合で急きょ延期)

(以上)